



平和をわれらに--終戦記念日によせて 戦争体験を語り継ぐつどい

代田・九条の会では毎年終戦記念日に因み、戦争体験を語り継ぐイベントが開催されます。今年、8月11日に、下北沢ナザレン教会で、開催されました。

地元東大原小学校出身の音楽活動家である鈴木郁子さんによる朗読と音楽が披露されました。鈴木さんは、やはり地元北沢地区在住の被爆者による体験記「原爆と母の死」に感銘を受け、それをもとに、「平和をわれらに」という作品にまとめられました。

朗読は感情を入れてはならないと言われますが、内容が想像を絶する状況だけに鈴木さんの朗読は自然と感情移入がなされていました。それが不思議に臨場感にあふれ、まるで実際に目の前にあるように感じられたのです。手記の著者の俳句も織り込んだオリジナル曲の挿入もあり、豊富な内容が良く伝わりました。鈴木さんのご努力と事務局の方々のご尽力、会場を提供して下さった坂本牧師ご夫妻のご厚情の賜物と、聴かせて頂いたことに深く感謝致しました。

このように戦争体験を次世代に語り継ぐことは本当に大切だと改めて感じました。ただ、日本という国土は災害が多く、時間の経過により戦争もその一つと感じ、「もう戦争は嫌だ」というだけでは済まされないと思います。今現在の世界情勢、特にアジア地域の国際関係に直関連しているのです。どうして原爆投下されたのか？という問題からはじめて、なぜ明確な国力の差を認識しながら開戦に踏み切ったのか？どうして連合国は経済封鎖をしたのか？なぜ日本は中国に侵略して、何をしたのか？そもそも日本の近代化とは？というようなことに至るまで、見たくない、聞きたくない事実を直視する必要があると思います。

なぜならば、私たち今生きている若いも若きも現在だけでなく、過去と未来に対する責任があるからです。

(代田5丁目・桑田 喜美子)

八月六日
あの日的高温
甦へる
原爆忌
遠景に
青空望む
実体験も



体験を語る野間口 至さん

写真撮影：小澤 満吉

終戦法記念日によせて アンケート より

1 すずき いくこさんの朗読と音楽について

- ・作者の思いがひしひしと伝わってきた。
- ・すばらしい朗読と歌でした。心がこもり、原爆の悲惨さを、芸術に高めて表現されているのに感動を覚えます。
- ・笑顔がすばらしく、歌とお話も良かったです。
- ・歌曲「八月六日あの日的高温と母の死」「濁りなき青空望む原爆忌」は、映像を観ているかのような気持ちだ。音楽を通して平和を願う心が前面に出て感動した。
- ・こうした形式もなかなか説得力があつてよかったです。
- ・すばらしい声に聞きほれてしまいました。
- ・歌も素晴らしかったのですが、朗読がよかったです。状景が浮かび、雰囲気がとても独特で最高でした。
- ・原爆体験を、しかもお母様の話に胸を打たれました。すばらしいピアノ演奏と歌声に聞きほれました。
- ・ピアノの弾き語りって、いいな、と思いました。単に曲を聴くのと違って、弾き手の気持ちがとてもよく伝わってきました。

2 今日の集い全体について、ご感想・ご意見など

- ・戦争体験は、休憩時間に順番を決めておくと、発言しやすかったと思います。
- ・みんなで歌をうたうのはいいですね。
- ・牧師さんのお話は、具体的でよく理解できました。
- ・教会での集いは音楽にも満たされるのですばらしいですね。
- ・小学校の同窓会で戦争体験記録に取り組んでおられることに、身近で戦争を考える良い取り組みだと思いました。

3 代田・九条の会の取り組みについて、など

- ・若い世代を巻き込むような運動になってほしい。
- ・activeで感心します。
- ・20代、30代の若い人びとへの呼びかけを強めてほしい。私たちの願いを未来まで持続的に発展させるために！



ピアノを弾き、朗読と歌を披露する鈴木郁子さん



挨拶をするナザレン教団・下北沢教会の牧師・坂本 誠さん

日本国憲法(抜粋)

第9条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇または武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。

2. 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。
国の交戦権は、これを認めない。

第99条 天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負ふ。

「米朝首脳会談と憲法 9 条 どうする日本？」を聞いて

暑さの厳しい7月25日の夕方、九条の会東京連絡会の主催による、学習会に参加。掲題のはなしをされたのは日本平和委員会・事務局長の千坂純さん。

4月27日の南北首脳会談と6月12日の初の米朝首脳会談が行われ、朝鮮半島をめぐる首脳同士がきちんと話し合いをしたことの歴史的意義について、それぞれの会談の成果として発表された「板門店宣言」と「共同声明」の内容を紹介しながら説明された。

特に日本国内においては、会談の成果は実らないのではないかと懐疑的にみる見方がマスコミなどで広がっていることについて、一つ目にはすでに北朝鮮側でも米韓側でも「変化」が始まっていること、二つ目には交渉の中身は重要であるだけにすんなりと行かないのは当たり前で、トランプ大統領の「我々は焦っていない」という指摘をあげ、今後の交渉の行方に注目していくことの重要性を指摘された。

昨年の今頃、北側のミサイル開発の脅威と米側の軍事行動にまでエスカレートさせかねない発言のなかでの緊張から、今年初の首脳会談の実現へと大きく変化しました。米国内にも先制攻撃反対の世論が広がったこと、戦争で最も深刻な被害を受ける韓国で起こった民衆の運動と新政権の誕生、北朝鮮内部でも生じてきた新たな変化、があったことを資料を用いて説明された。北朝鮮の内部資料については4月に開かれた「朝鮮労働党中央委員会第7期第3回総会」の決定を紹介された。

こうしたアジアの平和の流れに逆行し、異常な改憲・日米軍事同盟強化路線を推し進めているのが安倍政権で、対話から完全に切り残されてしまっているのが現状である、と指摘された。

私自身も今まで注意して見て来なかったが、今回調べてみると、「朝鮮公式文庫 朝鮮民主主義人民共和国の公式報道、政府」というウェブページに、北朝鮮の種々の文庫が日本語訳されて公開されていることが分かりました。かなり宣伝の意味合いが強いの、批判的に見る事が重要ですが、彼らが何を言っているのか、マスコミ報道に頼るだけでなく、知ることも重要と思ひ紹介します。（代田2丁目・伊東 宏）

東アジア非核化構想～アジアの非核化構想を考える(科学者集会)

7月29日原水爆禁止世界大会を期に、科学者と市民による「東アジア非核化構想～アジアの市民連帯を考える」集会が開かれた。

先の米朝首脳会談は、北朝鮮に対し安全の保証の提供と、朝鮮半島の完全な非核化を相互に約束する共同声明に署名し、永続的で安定した平和体制の構築を表明しました。この声明は、米朝間の戦争の危機を回避しただけでなく、東アジア全域の非核化と平和への展望をいだかせる内容で、国際社会と市民社会から注目されています。講演者の和田春樹さん（東大名誉教授）は、米朝会談の成果について、キューバ危機を回避した1962年の米ソ会談に匹敵する歴史的意義を持つ外交交渉であると強調した。非核化を実現するためには、北朝鮮が攻撃を受けることがない状況をつくる必要があります。日本海の非核化だけでなく、日本においても非核化、在日米軍基地の廃棄・核の傘からの撤退が必然的に求められると述べました。まさに、日本が率先して核兵器禁止条約国になり、範を示すことが求められているのです。

日本の役割について、アメリカ追随から離れ、2002年に確認した日朝平壤宣言に基づき、国交正常化の実現、植民地支配の精算、経済協力などについて交渉を始め、拉致問題などの懸案問題は交渉の過程で解決する姿勢を持つことが重要だと述べた。日本独自の外交を展開することができなくては、日本は孤立してしまい、日本の政治自体も世界から信頼を失いかねません。

安倍政権は、日本を取り巻く安全保障の環境を厳しくするとして、北の脅威をあげます。しかし、多くの国民が求めていることは、脅威を取り除くための努力、外交を展開することではないでしょうか。これこそが憲法9条の示す道なのです。

九条を活かす政治の実現を求め、改憲を許さない声を一層大きく盛り上げていきたいと思ひます。（代田2丁目 坂本 功）



～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

安倍首相は「改憲」をあきらめてはいない！！ふたたび

報道によると、12日、山口県であった集会で、安倍氏は次のように述べたということです。

「・・・本年の党大会では党の運動方針として、公約に掲げた4項目の議論を重ね、憲法改正案を示し、憲法改正の実現を目指す方針を決定した。これに従って意見集約に向けた党内議論が精力的に行われてきた。いつまでも議論だけを続けるわけにはいかない。これまでの活発な党内議論の上に、自民党としての憲法改正案を次の国会に提出できるよう、とりまとめを加速すべきだ。来月には総裁選がある・・・」

先の国会では、行政の私物化や改ざん・隠ぺいなどを行った政権への批判が大きく、「改憲」については大きな進展はありませんでした。それどころか、改憲以前にやらなければならないことやこの間の暴走政治をストップさせることなどこそが重点である、という声が国民の間では多数です。

にもかかわらず、安倍首相は、今秋の自民党総裁選で「改憲」を争点にし、三選を受けて秋の臨時国会にも改憲案を提示する狙いでいます。石破氏の言うところでは「自民党内での党議決定もされていないのに」ということで、安倍首相の独走ぶりが目立ちます。しかし、報道されている所では、安倍首相の三選は動かないようです。「支持を受けたのだから」という口実で、秋の臨時国会や年明け早々の通常国会に「改憲案」を提出する可能性は否定できません。

一方で、昨年から進めてきた、「3000万署名」活動は、6月10日までに1800万人を超える署名が集まりました。署名を進めている市民アクションでは、改憲断念が明確になるまで継続し、9月30日に再集約する予定です。暑さも峠を越えてきました。安倍氏があきらめないのなら、私たちほそれ以上の粘りをもってこの企みを打ち砕かなくてはなりません。いろいろなつながりを使って、さらにもう一段署名活動をすすめてみましょう。何としても改憲策動を封じてしまうために。

(代田2丁目・伊東 宏)



集 会 等 の 紹 介

8月27日(月) 午後6時～ 8月懇談会

お話：「辺野古基地問題と沖縄知事選」 東森英男さん

(安保破棄中央実行委員会・事務局長)

場所：エデュカス東京 地下B会議室(東京メトロ・麹町駅6番出口)

主催：九条の会東京連絡会

9月14日(金) 午後6時～7時

区内4 駅頭一斉宣伝行動 (下北沢、豪徳寺、成城学園前、千歳烏山)

オオゼキ前付近に集合

主催：戦争させない！九条壊すな！世田谷区民連絡会

9月19日(水) 18:30～

戦争法からまる3年、安倍9条改憲NO！

沖縄・辺野古新基地建設阻止！9・19日比谷野音集会

場所：日比谷野外音楽堂

共催：戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会

基地の県内移設に反対する県民会議

「止めよう！辺野古埋め立て」国会包囲実行委員会

9月29日(土) 午前10時～

世田谷区民集会&パレード

場所：世田谷区役所中庭

主催：戦争させない！九条壊すな！世田谷区民連絡会

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。